

# 第 32 回全国産業教育フェア青森大会 第 9 回全国高校生介護技術コンテスト

## － 事前課題 －

福井カヨさん(78 歳・女性)は 2 年前に脳梗塞で倒れて入院、後遺症として軽度の左片麻痺と中等度の認知症がみられました。退院後、自宅で長男夫婦と生活していましたが、近所に買い物に行ったまま自宅に戻れなくなり警察に保護されたり、鍋を火にかけたことを忘れて焦がしてしまったりすることが多く起きるようになりました。そのため、家族の希望でグループホームに入居することになりました。グループホームでの個別援助計画には、福井さんができることを増やし、前向きに生活できるような支援が組み込まれています。

健康状態 / 心身機能 身体構造	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脳梗塞の後遺症による軽度の左片麻痺がある。(利き手は右手)</li> <li>・中等度認知症:同じことを何度も質問したり、食事を済ませてから「食べていない」と訴えたりすることがある。</li> <li>・老人性難聴:はっきりと大きい声なら聞こえる。補聴器の使用はない。</li> <li>・要介護認定 要介護 2</li> <li>・認知症高齢者の日常生活自立度 IIIa</li> <li>・障害高齢者の日常生活自立度 A-2</li> </ul>
活 動	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動:歩行が不安定なため、居室やホールでは一部介助で4点杖を使用している。ただし、廊下などでは車いす移動の介助が必要である。座位保持や立位は可能だが、車いすやベッド等への移乗は一部介助が必要である。</li> <li>・食事:健側でスプーン・フォーク等を使用し、自力で摂取している。</li> <li>・更衣:健側を活用し自分で行おうとするが、一部介助が必要である。</li> <li>・排泄:尿意・便意はあり、トイレを使用している。一部介助が必要である。</li> <li>・コミュニケーション:加齢による難聴のため、大きい声で話しかけないと聞こえにくくなっている。</li> </ul>
参 加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日中はホールで過ごすことが多く、職員やほかの利用者とよく話をしている。</li> <li>・職員から誘われると調理や家事を手伝ってくれる。野菜を切ったり、洗濯物をたたんだり、短い時間でも大好きだった家事をすると生き生きとした表情になる。</li> <li>・家族の面会を楽しみにしている。</li> </ul>
個人因子	<p>78歳、女性。もともと専業主婦をしており、家事をこなしながら同居する家族や孫の世話を生きがいにしてきた。明るく社交的で、地域の行事にも積極的に参加していた。認知症の症状が進んでからは、家族に迷惑をかけたくないという気持ちから大好きだった家事もやらなくなり、一日中テレビを見て過ごすことが多かったが、入居後は、職員の支援を受けながら役割をもって生活できるようになった。元気がないときはアルバムの写真を見て家族の話をするとう気持ちが落ち着く。</p>
環境因子	<ul style="list-style-type: none"> <li>・半年前からグループホームを利用している。</li> <li>・1年前に夫と死別し、自宅には長男家族が暮らしている。月に2回程度、長男夫婦や大学生の孫が面会に来る。</li> </ul>

### 【課題】

16時、家族との外出から帰ってきた福井カヨさんは、入浴を終えて脱衣所で車いすに座っています。福井さんにパジャマを着ていただき、廊下に設置されている水分補給のスペースで水分補給の支援を行ってください。その後、ホールで福井さんの個別援助計画の一つである「洗濯物をたたむ」支援を行ってください。

※入退室等のアルコールの手指消毒は省略します。